

産地戦略

実施期間 令和 7 ～ 1 1 年度

実施主体

都道府県

対象地域

対象品目

中丹米振興協議会

京都府

綾部市・福知山市・舞鶴市

水稻



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

2 0 2 3 年に地球沸騰化と言われるようになり、温暖化は顕著に農業に影響を及ぼしている。稲作から発生するメタンガスの削減及び環境負荷の低減の取組みとしての減化学肥料・減化学農薬の栽培を継続すること、温暖化の影響下での稲作の収量・品質の確保による経営継続を産地単位で目指していく。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		田植え	中干	穂肥	穂肥	稲刈り	秋起し						
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名 （環境にやさしい栽培基本体系）		田植え	中干	穂肥		稲刈り	秋起し						
技術名		クプラスチック流出防止		流し込み施肥			腐熟促進						
主な作業名 （緑肥体系）	すき込み	入水 田植え	中干	穂肥		稲刈り	荒起し 緑肥耕種					細断	すき込みから入水までは 1 週間以上開ける
技術名				葉色確認							窒素量確認		

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	2567	▶ 2567	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	10	▶ 148	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1	▶ 1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要  
〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学農薬のみの防除	▶ 環境・害虫発生モニタリング	使用回数の低減
環境	化学肥料の施用	▶ 緑肥の利用	化学肥料の低減
環境	秋起こしなし	▶ 秋起こしの実施	メタンガスの排出削減
省力	穂肥の散布	▶ 流し込み施肥	省力化
省力	プラスチックの流出に対して対策なし	▶ 水尻にネットの設置	河川へのプラスチック流出防止

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	環境にやさしい栽培基準体系（農薬成分数）	<b>18</b>	▶ <b>9</b>	京式部特別栽培米基準
環境	化学肥料の削減（緑肥 k g ）	<b>7</b>	▶ <b>3</b>	
環境	秋起こしの実施	<b>0</b>	▶ <b>1</b>	
省力	流し込み施肥（時間）	<b>3</b>	▶ <b>1</b>	散布から流し込み設置（2回分）
			▶	

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）  
\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

GHSの削減を目指した秋耕の推奨及び中干の励行。化学農薬使用回数の削減に向けた情報の発信
--

関係者の役割

関係者名	農業者	JA京都にのくに JA京都福知山支店 京都府中丹東・西農業改良普及センター	京都府中丹広域振興局 福知山市 舞鶴市 綾部市	JA中央会 全農京都府本部 農業共済組合
役割	・グリーンな栽培技術体系の実践 ・新規技術の導入検討	・技術指導 ・情報発信 ・栽培講習会の開催 ・技術に対する評価・普及 ・産地戦略の取組推進 ・グリーンな栽培マニュアルの見直し	・補助事業の提案 ・情報発信	・情報発信

その他